

メッセージアウトライン ローマ16：21～27「最後のあいさつ」

[21]「私の同労者テモテが、あなたがたによろしくと書いています。また私の同国人ルキオとヤソンとソシパテロがよろしくと書いています」

パウロのあいさつの最初に名があげられたテモテはパウロの第2回伝道旅行の時にルステラで見いだされ、それ以来パウロに同行するようになった愛弟子である。→使徒16:1~3 しかしパウロは彼を弟子とは呼ばず、同労者として紹介する。ルキオはアンテオケ教会の預言者や教師のひとりと思われる。→使徒13:1 ヤソンは使徒17:5~9に出てくるテサロニケ出身の人物と思われる。ソシパテロは使徒20:4に記されているベレヤ人ソパテロのことと考えられている。ルキオ以下の三人をパウロは「私の同国人」と紹介する。これは同じユダヤ人と言う意味。

[22]「この手紙を筆記した私、テルテオも、主にあつてあなたがたにごあいさつ申し上げます」

ここまで来ておそらくパウロのすすめで、手紙を筆記していたテルテオ自身があいさつのことばを入れたのであろう。パウロの回りには彼の身の回りのことを手伝う何人もの助手がいたと思われるがテルテオはそのような裏方の代表となっていると言えよう。

[23]「私と全教会の家主であるガイオも、あなたがたによろしくと書いています。市の収入役であるエラストと兄弟クワルトもよろしくと書いています」

ガイオはIコリント1:14に出てくるガイオと考えられる。パウロのこのローマ人への手紙はコリントのすぐ近くにあったケンクレヤの教会の執事フィベがローマに行く時(ローマ16:1~2)に持参させたと考えられている。以上のことからこの手紙の執筆場所はコリントであったであろう。ガイオは彼の家をコリント教会のために提供していた家主であった。エラストは市の収入役として紹介されている。彼は社会的な地位があった。兄弟クワルトとはエラストの兄弟と言う意味ではなく、主にある兄弟と言う意味。

21~23節で教えられることは、①有力な人も無名の人も入り混じって教会は構成されている。②信仰と愛に満ちあふれた礼儀正しいあいさつのすばらしさ。③パウロは自分の周りの人たちをそれぞれ同労者、同国人、家主、収入役、兄弟とひとことで紹介している。私たちが誰かに紹介される時、どのように紹介されるだろうか。信仰者として良き歩みをする者になりたい。24節は有力な写本にはない。

[25-27]「私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち世々にわたって長い間隠されていたが、今や現されて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方。知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって、御栄えがとこしえまでありますように」

「私の福音」とは私が信じ、宣べ伝えているイエス・キリストから受けた福音という意味。「イエス・キリストの宣教」とはイエス・キリストを内容とする宣教と言う意味。それは旧約の預言者たちによって語られた奥義の啓示であった。

27節は神に対する賛美と頌栄である。